

新型インフルエンザに関する意識調査結果・II

**発生から約半年。生活者は、「堅実な対策」へ。
2人に1人が「自分や周囲が感染した」という状況の中、詳しい知識で自分の身を守る。**

このたび博報堂と、グループ会社である東京サーベイ・リサーチ(社長:中澤勝、東京都中央区)は、博報堂グループ独自の調査パネル「Hi-panel」を使って、新型インフルエンザに関する生活者意識調査を実施いたしました。(調査日:10/17(土)・18(日)、対象:「Hi-panel(*1)」モニター会員657名、手法:Webアンケート調査)6月中旬に実施した前回調査の結果とあわせてご紹介いたします。(前回調査日:6/13(土)・14(日))

新型インフルエンザに対し不安を感じている人は73.4%と、国内感染が判明した5月中旬(58.0%)からは約15ポイント増、いったん落ち着きが見られた6月の調査時点(36.8%)からは約37ポイント増と、大幅に割合が高まりました。弱毒性から強毒性に変化することへの警戒感を持つ人も93.5%と、前回調査時(81.7%)からさらに増え、ほとんどの生活者が新型インフルエンザに危機感を抱いている状況が明らかになりました。

これらの数字の背景には、新型インフルエンザに対する認識自体の変化があると考えられます。前回調査では「通常のインフルエンザとあまり変わらない」と思う人が70.9%でしたが、今回調査では約22ポイント減って49.3%、反対に「とても恐ろしい病気だと思う」とする割合が27.6%から45.8%に増加するなど、“季節性インフルエンザとは異なる、それよりも警戒すべきインフルエンザ”という認識が進んでいることが分かります。実際に、「自分の身近で感染者が発生した」という人が50.8%と半数以上にのぼっており、他人事ではない、切実な問題として捉えざるを得ない状況が伺えます。

認識の変化とともに、対策の内容も変化してきているようです。前回調査の頃は、手洗い・うがい以外には「とりあえずマスク着用」や「なるべく外出しない」などの、いわば単純な予防行動が目立ちました。しかし今回の調査では、マスク着用率・外出抑制ともに約半減と沈静化。代わりに目立ったのは、新型インフルエンザに関する“知識の浸透”です。8割以上の生活者が、感染経路や治療法、予防法などの主要な基本情報を認知・理解していることが分かりました。さらに、現在欲しい情報は1位:ウィルス特性(71.2%)、2位:ワクチンの安全性(64.7%)、3位:ワクチンの供給量(53.7%)となっており、より詳しい知識を得ることで自分や家族の身を守ろうとする「堅実な対策」ぶりが伺える結果となりました。

今後も博報堂グループでは、様々な生活者意識調査をタイムリーに実施してまいります。

本件に関するお問い合わせ:

博報堂 広報室 西尾・山野 (Tel:03-6441-6161)
東京サーベイ・リサーチ 開発企画部 (Tel:03-5543-2353)

<調査日程・対象・手法>

【今回】調査日：10/17(土)・18(日)、対象：「Hi-panel(*1)」モニター会員 657 名、手法：Web アンケート調査

【前回】調査日：6/13(土)・14(日)、対象：「Hi-panel (*1)」モニター会員 704 名、手法：Web アンケート調査

<今回の調査結果のポイント>

※ p3～p4 のグラフ・表と対応しています。

※ **数字は、前回調査結果→今回調査結果。** 数字の比較がないものは前回調査時には聴取せず。

- ① 新型インフルエンザに対する現在の不安感は 73.4%。初期の不安ピーク時(国内感染が判明した時期)よりも約 15 ポイント、いったん不安が落ち着きつつあった前回調査時(6月中旬)よりも約 37 ポイントの上昇。
- ② 新型インフルエンザが弱毒性から強毒性に変化することを警戒すべきだと感じている人は 81.7%→93.5%(約 12 ポイント増)。
- ③ 新型インフルエンザに対する意識の変化：「通常のインフルエンザとあまり変わらない」70.9%→49.3%(約 22 ポイント減)、「とても恐ろしい病気だと思う」27.6%→45.8%(約 18 ポイント増)。
- ④ 全体の 50.8%が、自分やその周囲の人が新型インフルエンザに感染したと回答。主には「子供が通っている学校・塾の先生や生徒」、「友人・知人」。
- ⑤ 実際に取り組んでいる予防対策：「マスクを着用する」56.1%→30.7%(約 25 ポイント減)。「外出後の手洗い」86.9%→88.9%、「外出後のうがい」78.8%→79.9%は、ほとんど変化なし。
- ⑥ 新型インフルエンザに関する基本情報の認知・理解【90%以上が認知】＝「感染者の咳・くしゃみなどとともに出されたウイルスから感染する」(92.8%)、「予防のために手洗い・うがいが大切」(92.7%)
- 新型インフルエンザに関する基本情報の認知・理解【80%以上が認知】＝「ワクチン接種には優先順位がある」(87.7%)、「妊婦や小児の重症化リスク」(85.4%)、「人ごみではマスク着用が大切」(85.2%)、「優先順位が高いのは医療従事者や妊婦など」(82.6%)、「大半の人が免疫を持っていないため感染が拡大しやすい」(82.3%)、「主な治療法はタミフル・リレンザの投与」(81.4%)
- ⑦ 現在欲しい情報は、1位：ウイルス特性(感染力、毒性の強さなど)に関する情報(71.2%)、2位：ワクチンの安全性情報(64.7%)、3位：ワクチンの供給量情報(53.7%)。

<調査概要>

調査手法：Web 調査 調査日：10月17日(土)・18日(日)

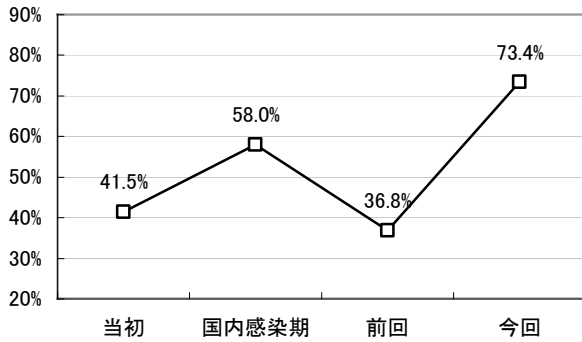
調査対象：「Hi-panel」のモニター会員(男女 15 歳～69 歳) 首都圏・京阪神圏 全 24 層

配信サンプル数：1200 名 有効回収数：657 名(男性 302 名、女性 355 名) ※回収率 54.8%

*1 「Hi-panel」とは・・・ 調査回答者の「顔が見える、声が聞こえる」、博報堂グループ独自のハイクオリティなインターネット調査システムです。事前の戸別訪問による協力依頼のもとに登録してもらったアンケートモニターが調査対象です。そのため、調査対象者としては不適切な謝礼金や懸賞品目的のユーザーの排除や、インターネットのヘビーユーザーに偏らない調査対象者の設定が可能です。

<グラフ・表>

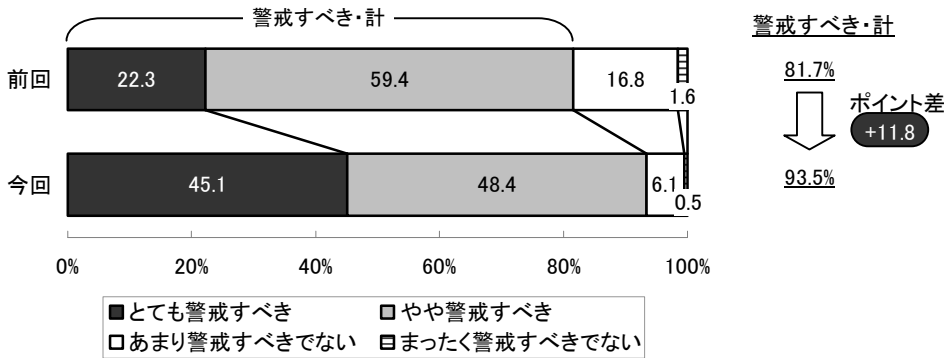
① 新型インフルエンザに対する不安感



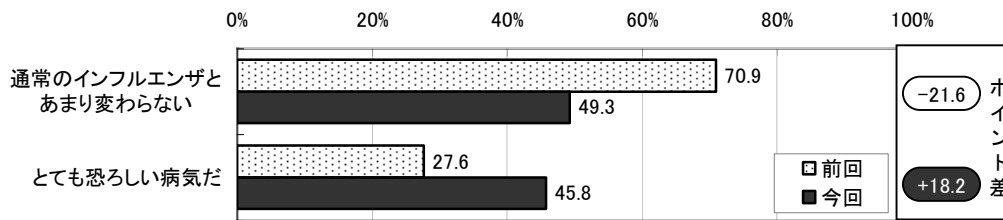
(※注)
左グラフは、下記のそれぞれの時点における自分や家族が感染することへの不安の程度を質問したものです。

- 当初：成田空港などで海外渡航者の感染が報道された当初(=5月頭)
- 国内感染期：国内(神戸・大阪など関西)での感染が報道された頃(=5月中旬～)
- 前回：前回の調査実施時点(=6月中旬)
- 今回：今回の調査実施時点(=10月中旬)

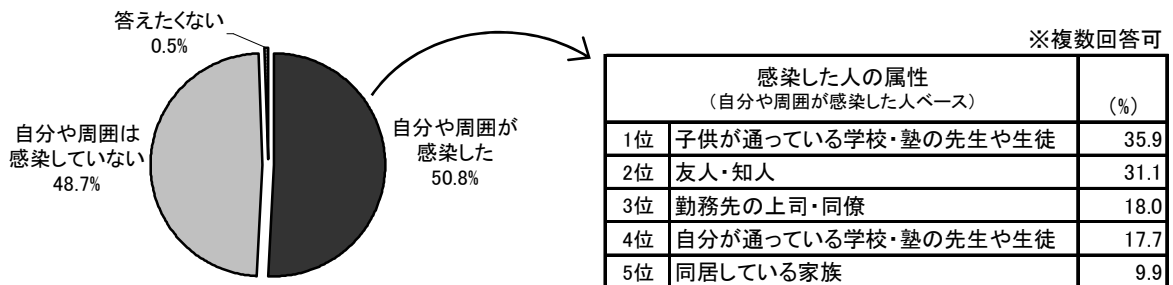
② 強毒性変化に対する警戒感



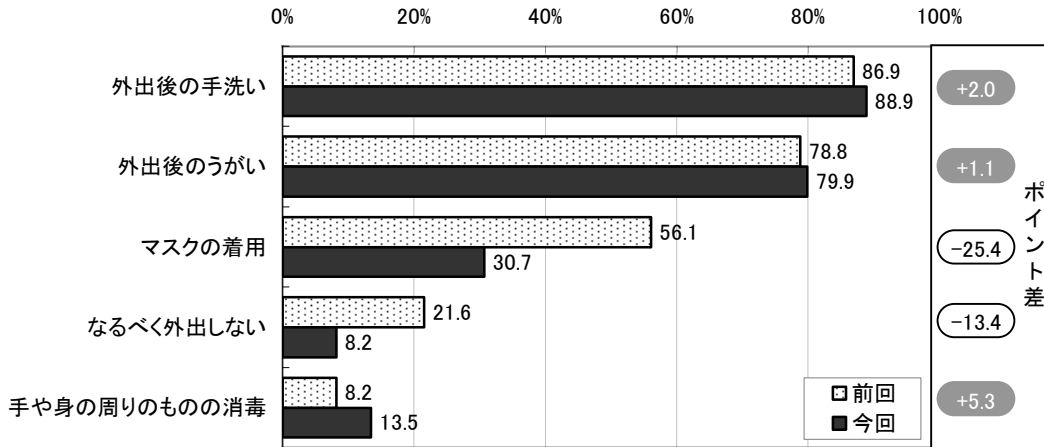
③ 新型インフルエンザに対する意識の変化



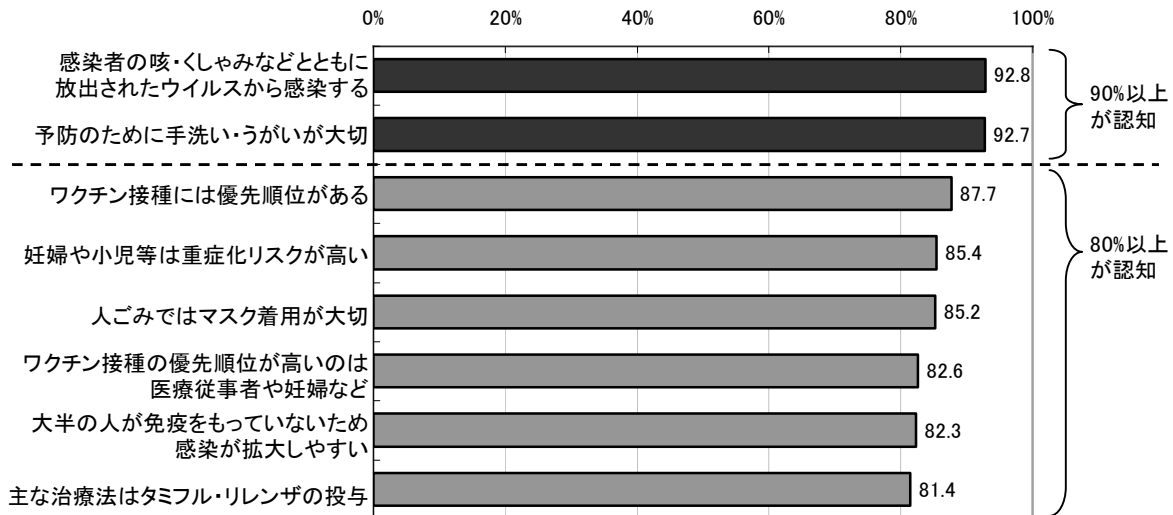
④ 自分や周囲に感染者がいるか



⑤ 実際に取り組んでいる予防対策



⑥ 基本情報の認知・理解状況



⑦ 現在欲しい情報

※複数回答可 (%)

順位	欲しい情報	割合 (%)
1位	ウイルス特性(感染力、毒性の強さなど)	71.2
2位	ワクチンの安全性	64.7
3位	ワクチンの供給量	53.7
4位	自分の住む自治体の対策	50.8
5位	発症患者数	46.3
6位	国の対策	42.6
7位	自分や家族の会社・学校の対策	35.5
8位	マスクや消毒液の在庫情報	18.3
9位	その他	1.5
10位	欲しい情報はない	3.2